

カスタマー送信ツール

バージョン 2.0

McAfee®
システム保護

業界トップの侵入防止ソリューション

McAfee®

著作権

Copyright © 2005 McAfee, Inc. All Rights Reserved.

このマニュアルのいかなる部分も、McAfee, Inc. またはその代理店または関連会社の書面による許可なしに、形態、方法を問わず、複写、送信、転載、検索システムへの保存、および他言語に翻訳することを禁じます。

商標

ACTIVE FIREWALL, ACTIVE SECURITY, ACTIVESECURITY (およびそのカタカナ表記), ACTIVESHIELD, CLEAN-UP, DESIGN (様式化された E), DESIGN (様式化された N), ENTERCEPT, EPOLICY ORCHESTRATOR, FIRST AID, FOUNDSTONE, GROUPSHIELD, GROUPSHIELD (およびそのカタカナ表記), INTRUSHIELD, INTRUSION PREVENTION THROUGH INNOVATION, MCAFEE, MCAFFEE (およびそのカタカナ表記), MCAFFEE AND DESIGN, MCAFFEE.COM, MCAFFEE VIRUSSCAN, NET TOOLS, NET TOOLS (およびそのカタカナ表記), NETSCAN, NETSHIELD, NUTS & BOLTS, OIL CHANGE, PRIMESUPPORT, SPAMKILLER, THREATSCAN, TOTAL VIRUS DEFENSE, VIREX, VIRUS FORUM, VIRUSCAN, VIRUSSCAN, VIRUSSCAN (およびそのカタカナ表記), WEBCAN, WEBSHIELD, WEBSHIELD (およびそのカタカナ表記) は米国法人 McAfee, Inc. またはその他の国における関係会社の登録商標です。McAfee ブランドの製品は赤を基調としています。本書中のその他の登録商標及び商標はそれぞれその所有者に帰属します。

使用許諾情報

使用許諾契約

お客様へ：お客様がお買い求めになられたライセンスに従い、該当する契約書（許諾されたソフトウェアの使用につき一般条項を定めるものです。以下「本契約」といいます）をよくお読みください。お買い求めになられたライセンスタイプがご不明の場合には、担当営業またはライセンス付与管理部門にご相談になるか、製品に付随する購入関係書類若しくは購入手続きにおいて別途受領された書類をご参照ください。本契約の規定に同意されない場合は、製品をインストールしないでください。この場合、弊社またはご購入元に速やかにご返品いただければ、所定の条件を満たすことによりご購入額全額をお返しいたします。

帰属

本製品には下記のソフトウェアおよびテクノロジーが含まれている場合があります。

- OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project によって開発されたソフトウェア (<http://www.openssl.org/>)。• Eric A. Young によって作成された暗号化ソフトウェア、および Tim J. Hudson によって作成されたソフトウェア。• GNU General Public License (GPL) あるいは、プログラムもしくはその一部の複製、変更、再頒布およびソースコードへのアクセスを許諾するフリーソフトウェアライセンスで使用（または再ライセンス）が許可されるソフトウェア プログラム。GPL では、ソフトウェアを実行可能なバイナリ形式で配布する場合に、そのソースコードも一緒に提供することが定められています。本製品に GPL で配布されているソフトウェアが含まれている場合、そのソースコードが製品 CD に収録されています。フリーソフトウェアライセンスにより、弊社が製品のライセンス契約で規定している範囲を超えてソフトウェア プログラムの使用、複製、または変更を許諾しなければならない場合、これらの権利が本資料に記載されている権限または制約より優先されるものとします。• Henry Spencer によって作成されたソフトウェア。Copyright 1992, 1993, 1994, 1997 Henry Spencer。• Robert Nordier によって作成されたソフトウェア。Copyright © 1996-7 Robert Nordier。• Douglas W. Sauder によって作成されたソフトウェア。• Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェア。本ソフトウェアの使用許諾条件については、www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.txt を参照。• International Components for Unicode ("ICU") Copyright ©1995-2002 International Business Machines Corporation and others。• CrystalClear Software, Inc. によって開発されたソフトウェア。Copyright ©2000 CrystalClear Software, Inc. • FEAD® Optimizer® technology, Copyright Netopsystems AG, Berlin, Germany。• Outside In® Viewer Technology ©1992-2001 Stellant Chicago, Inc. および / または Outside In® HTML Export, ©2001 Stellant Chicago, Inc. • Thai Open Source Software Center Ltd. および Clark Cooper に著作権のあるソフトウェア。©1998, 1999, 2000。• Expat maintainers に著作権のあるソフトウェア。• The Regents of the University of California に著作権のあるソフトウェア。©1996, 1989, 1998-2000。• Gunnar Ritter に著作権のあるソフトウェア。• Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. に著作権のあるソフトウェア。©2003。• Gisle Aas に著作権のあるソフトウェア。©1995-2003。• Michael A. Chase に著作権のあるソフトウェア。©1999-2000。• Neil Winton に著作権のあるソフトウェア。©1995-1996。• RSA Data Security, Inc. に著作権のあるソフトウェア。©1990-1992。• Sean M. Burke に著作権のあるソフトウェア。©1999, 2000。• Martijn Koster に著作権のあるソフトウェア。©1995。• Brad Appleton に著作権のあるソフトウェア。©1996-1999。• Michael G. Schwern に著作権のあるソフトウェア。©2001。• Graham Barr に著作権のあるソフトウェア。©1998。• Larry Wall および Clark Cooper に著作権のあるソフトウェア。©1998-2000。• Frodo Looijaard に著作権のあるソフトウェア。©1997。• Python Software Foundation に著作権のあるソフトウェア。Copyright ©2001, 2002, 2003。本ソフトウェアの使用許諾契約は、www.python.org を参照。• Beman Dawes に著作権のあるソフトウェア。©1994-1999, 2002。• Andrew Lumsdaine, Lie-Quan Lee, Jeremy G. Siek に著作権のあるソフトウェア。©1997-2000 University of Notre Dame。• Simone Bordet & Marco Cravero に著作権のあるソフトウェア。©2002。• Stephen Purcell に著作権のあるソフトウェア。©2001。• Indiana University Extreme! Lab によって開発されたソフトウェア (<http://www.extreme.indiana.edu/>)。• International Business Machines Corporation および関連者に著作権のあるソフトウェア。©1995-2003。• University of California, Berkeley およびその貢献者によって開発されたソフトウェア。• mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>) での使用のために、Ralf S. Engelschall <rs@engelschall.com> によって開発されたソフトウェア。• Kevlin Henney に著作権のあるソフトウェア。©2000-2002。• Peter Dimov および Multi Media Ltd. に著作権のあるソフトウェア。©2001, 2002。• David Abrahams に著作権のあるソフトウェア。©2001, 2002。ドキュメントは、<http://www.boost.org/libs/bind/bind.html> を参照。• Steve Cleary, Beman Dawes, Howard Hinnant および John Maddock に著作権のあるソフトウェア。©2000。• Boost.org に著作権のあるソフトウェア。©1999-2002。• Nicolai M. Josuttis に著作権のあるソフトウェア。©1999。• Jeremy Siek に著作権のあるソフトウェア。©1999-2001。• Daryle Walker に著作権のあるソフトウェア。©2001。• Chuck Allison および Jeremy Siek に著作権のあるソフトウェア。©2001, 2002。• Samuel Krempp に著作権のあるソフトウェア。©2001。アップデート、ドキュメントおよび改訂履歴は、<http://www.boost.org> を参照。• Doug Gregor (gregod@cs.rpi.edu) に著作権のあるソフトウェア。©2001, 2002。• Cadenza New Zealand Ltd. に著作権のあるソフトウェア。©2000。• Jens Maurer に著作権のあるソフトウェア。©2000, 2001。• Jaakko Järvi (jaakko.jarvi@cs.utu.fi) に著作権のあるソフトウェア。©1999, 2000。• Ronald Garcia に著作権のあるソフトウェア。©2002。• David Abrahams, Jeremy Siek, および Daryle Walker に著作権のあるソフトウェア。©1999-2001。• Stephen Cleary (shammah@voyager.net) に著作権のあるソフトウェア。©2000。• Housemarque Oy <<http://www.housemarque.com>> に著作権のあるソフトウェア。©2001。• Paul Moore に著作権のあるソフトウェア。©1999。• Dr. John Maddock に著作権のあるソフトウェア。©1998-2002。• Greg Colvin および Beman Dawes に著作権のあるソフトウェア。©1998, 1999。• Peter Dimov に著作権のあるソフトウェア。©2001, 2002。• Jeremy Siek および John R. Bandela に著作権のあるソフトウェア。©2001。• Joerg Walter および Mathias Koch に著作権のあるソフトウェア。©2000-2002。• Carnegie Mellon University に著作権のあるソフトウェア。©1989, 1991, 1992。• Cambridge Broadband Ltd に著作権のあるソフトウェア。©2001-2003。• Sparta, Inc. に著作権のあるソフトウェア。©2003-2004。• Cisco, Inc. および Information Network Center of Beijing University of Posts and Telecommunications に著作権のあるソフトウェア。©2004。• Simon Josefsson に著作権のあるソフトウェア。©2003。• Thomas Jacob に著作権のあるソフトウェア。©2003-2004。• Advanced Software Engineering Limited に著作権のあるソフトウェア。©2004。• Todd C. Miller に著作権のあるソフトウェア。©1998。• Chris Torek によって Berkeley に提供されたソフトウェアから派生したコードを含み、The Regents of the University of California に著作権のあるソフトウェア。©1990, 1993。

目次

1	はじめに	4
	製品の機能	4
	このリリースの新機能	5
	改善されたツールへのアクセス	5
	電子メールの送信先が増加	5
	ブラックリストおよびホワイトリストの自動使用	6
	制限のない送信数	6
	送信における自動検出	6
	このガイドの使用	7
	対象読者	7
	表記規則	8
	製品情報の入手	9
	連絡先	10
2	スパムおよびフィッシュについて	11
	役に立つ用語	11
	スパムとは	12
	スパムの回避	12
	フィッシュとは	13
	フィッシュの回避	13
	カスタマー送信ツールとは	14
	ベイジアン学習	15
	スパム スコアの理解	15
3	ツールのインストール	16
	インストールのチェックリスト	17
	インストール ファイルのダウンロード	18
	ツールの手動インストール	18
	スクリプトを使用したツールのインストール	19
	例	21
	電子メール ユーザへのツールの通知	21
	設定の変更	22
4	ツールの使用	23
	スパムまたはフィッシュ サンプルを初めて送信	23
	スパムまたはフィッシュをさらに送信	24
	誤って分類されたサンプルを初めて送信	25
	誤って分類されたサンプルをさらに送信	26
	Microsoft Outlook 連絡先をホワイトリストに追加	26
	ツールの設定	27

1 はじめに

McAfee カスタマー送信ツール は、Microsoft® Outlook® 電子メール ソフトウェアとともに機能し、受信する不要な電子メール (または スпам) の量を削減します。このツールによって、サンプルを分析し、さらなるスパムを削減するために使用する McAfee ラボまたは他の McAfee 製品へ、電子メールが直接転送されます。

この項には以下のトピックが含まれます。

- 製品の機能
- このリリースの新機能
- このガイドの使用

製品の機能

McAfee カスタマー送信ツール は以下の製品と機能します。

- McAfee Secure Content Management appliance
- McAfee Quarantine Manager ソフトウェア

ツールによって、Microsoft Outlook クライアントへのツールバー ボタンおよびメニュー エントリが追加され、以下を実行できます。

- 詳細分析のために McAfee ラボへサンプルを送信する。
- さらなるスパムを防ぐために、McAfee Quarantine Manager または Secure Content Management appliance へサンプルを送信する。
- スпам (またはフィッシュ) として分類されていない不要な電子メールを送信する。
- スпам (またはフィッシュ) として誤って分類された不要な電子メールを送信する。
- オプションで、送信後にメッセージを削除する。
- 将来のスパムを防ぐために、スパムの送信者の電子メール アドレスをブラックリストに追加する。
- 送信者からの電子メールが誤ってスパムまたはフィッシュと分類されるのを防ぐために、送信者の電子メール アドレスをホワイトリストに追加する。
- 既知の連絡先が誤ってスパムまたはフィッシュと分類されるのを防ぐために、Microsoft Outlook 連絡先フォルダに登録された電子メール アドレスをホワイトリストに追加する。

ウィザードを使用してツールをインストールできます。多数の電子メール ユーザに本製品をインストールする場合、スクリプトを使用してインストールできます。

このリリースの新機能

カスタマー送信ツール のこのリリースには、以下の新機能または強化項目が含まれます。

- [改善されたツールへのアクセス](#)
- [電子メールの送信先が増加](#)
- [ブラックリストおよびホワイトリストの自動使用](#)
- [制限のない送信数](#)
- [送信における自動検出](#)

改善されたツールへのアクセス

以前のリリース	件名行が表示されると、標準のツールバーでボタンが利用でき、[アクション] メニューからエントリが可能です。
現在のリリース	さらに、電子メール メッセージが閲覧される場合、標準ツールバーでボタンが利用でき、[アクション] メニューからエントリが可能です。
利点	Microsoft Outlook でツールがより幅広く使用できます。
詳細情報は	23 ページの「ツールの使用」 を参照してください。

電子メールの送信先が増加

以前のリリース	分析のために、McAfee ラボへ電子メールを送信できます。McAfee では、スパム対策製品での検出率を改善するために、誤って分類された電子メールを分析します。
現在のリリース	<p>以下にも電子メールを送信できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ McAfee Secure Content Management appliance ■ McAfee Quarantine Manager ソフトウェア
利点	サンプルによって、ベイジアン データベースの性能が改善され、スパムおよびフィッシュ、また受信可能なメッセージを認識できます。
検出場所	この機能は、ツールがインストールされると利用可能になります。後で設定することもできます。
詳細情報は	23 ページの「ツールの使用」 を参照してください。

ブラックリストおよびホワイトリストの自動使用

以前のリリース	この機能は利用できませんでした。
現在のリリース	<p>この機能は、ツールを McAfee Quarantine Manager (MQM) とともに使用する場合に利用できます。</p> <p>送信者がホワイトリスト（信頼できる電子メール アドレスの一覧）またはブラックリスト（スパム送信者として既知の電子メール アドレスの一覧）へ自動的に追加されます。</p> <p>Microsoft Outlook 連絡先は、1 クリックでホワイトリストに追加できます。</p>
利点	既知のスパマーから送信された電子メールは、将来スパムとして自動的に分類されます。信頼できる送信元からの電子メールは、スパムとして分類されません。
検出場所	電子メールが分析のために MQM へ送信される場合、この機能が動作します。
詳細情報は	26 ページの「Microsoft Outlook 連絡先をホワイトリストに追加」 を参照してください。

制限のない送信数

以前のリリース	1 度に 10 個までのサンプルを送信できました。
現在のリリース	この制限は適用されません。
利点	すばやく簡単に送信が行えます。

送信における自動検出

以前のリリース	サンプルの提出後、スパム（またはフィッシュ）メッセージを手動で削除しなければなりませんでした。
現在のリリース	送信後にただちに選択したメッセージを削除するよう選択できます。
利点	すばやく簡単に送信が行えます。

このガイドの使用

このガイドには、製品の設定および使用に関する情報が記載されています。以下のトピックが含まれます。

- [はじめに](#)
新しい、または変更された機能の概要、このガイドの概要および McAfee 連絡先情報を含む、製品の概要。
- [スパムおよびフィッシュについて](#)
スパムおよびフィッシュ、またそれらを削減する方法に関する情報。
- [ツールのインストール](#)
ファイルのダウンロード。Microsoft Windows Installer の使用。スクリプトを使用したインストール。
- [ツールの使用](#)
サンプルの送信およびツールの設定方法。





対象読者

この情報は、以下の 2 種類の読者を対象としています。

- 組織の電子メール セキュリティを担当するネットワーク管理者。
- ソフトウェアの検出オプション設定を担当するユーザ。

表記規則

このマニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

太字	オプション、メニュー、ボタン、ダイアログ ボックスの名前など、ユーザインターフェースのすべての用語に使用します。 例： 対象のアカウント情報を [ユーザ名] と [パスワード] に入力します。
クローリエ体	フォルダやプログラムのパス、ユーザがそのまま入力するテキスト (システム プロンプトでのコマンドなど) に使用します。 例： プログラムのデフォルトの場所は次のとおりです。 C:\Program Files\McAfee\EPO\3.5.0 クライアント コンピュータ上で次のコマンドを実行します。 scan --help
斜体	語句の強調、新しい用語の紹介、製品マニュアル名またはマニュアル内のトピック (見出し) に使用します。 例： 詳細については、『VirusScan Enterprise 製品ガイド』を参照してください。
青字	Web アドレス (URL) やリンクに使用します。 例： McAfee の Web サイトを参照してください。 http://www.mcafee.com
< 用語 >	総称的な用語を表すために不等号括弧を使用します。 例： コンソール ツリーで [< サーバ >] を右クリックします。
	注： 同一のコマンドを実行する別の方法の説明など、補足的な情報を示します。
	ヒント： ウイルス対策やパフォーマンスの改善などを効果的に行うために McAfee が提案または推奨する内容を示します。
	警告： ユーザ、コンピュータ システム、企業、ソフトウェアのインストール、またはデータを保護するための重要なアドバイスを示します。
	危険： ハードウェアを取り扱う場合にけがや事故を防ぐための重要なアドバイスを示します。

製品情報の入手

特に注記のない限り、製品マニュアル McAfee ダウンロード サイトから Adobe Acrobat .PDF ファイル形式で入手できます。

製品ガイド — 製品およびその機能の概要、ソフトウェアのインストールおよび設定の詳細手順、配備、反復タスク、および操作手順に関する情報。

リリース ノート — *ReadMe*。製品情報、解決された問題、既知の問題、製品または製品のマニュアルに対する最新の変更点。このテキスト ファイルは、ソフトウェア アプリケーションに含まれています。

使用許諾契約 — McAfee 使用許諾契約。製品に対して購入することのできるライセンスのすべての種類が記載されています。使用許諾契約では、ライセンス製品の使用に関する一般的な条件が定義されています。

連絡先 — McAfee のサービスおよびリソースに対する連絡先情報。テクニカル サポート、カスタマー サービス、セキュリティ本部 (AVERT)、ベータ プログラム、およびトレーニングについて。このテキスト ファイルは、ソフトウェア アプリケーションに含まれています。

連絡先

セキュリティ 本部 : AVERT

ホーム ページ

<http://www.mcafeesecurity.com/us/security/home.asp>

ウイルス情報ライブラリ

<http://vil.mcafeesecurity.com>

AVERT WebImmune、サンプルの送信 (ログオン認証が必要です)

<https://www.webimmune.net/default.asp>

AVERT DAT 通知サービス

<http://vil.mcafeesecurity.com/vil/join-DAT-list.asp>

ダウンロード サイト

ホーム ページ

<http://www.mcafeesecurity.com/us/downloads/>

ウイルス対策 DAT ファイルおよびエンジンの更新

<http://www.mcafeesecurity.com/us/downloads/updates/default.asp>

<ftp://ftp.mcafee.com/pub/antivirus/datfiles/4.x>

スパム対策ルール ファイルおよびエンジンの更新

<ftp://ftp.mcafee.com/spamdefs/1.x/>

製品のアップグレード (ログオン認証情報が必要です)

<http://www.mcafeesecurity.com/us/licensed2/>

セキュリティ脆弱性用の HotFix およびパッチ リリース (一般に公開)

<http://www.mcafeesecurity.com/us/downloads/updates/hotfixes.asp>

製品用の HotFix およびパッチ リリース (サービスポータル アカウントおよび McAfee テクニカル サポートの承認番号が必要です)

<https://mysupport.nai.com/products/products.asp>

製品サポート終了期限

http://www.mcafeesecurity.com/us/products/mcafee/end_of_life.htm

ソフトウェアおよびハードウェア テクニカル サポート

ホーム ページ

http://www.mcafeesecurity.com/us/support/technical_support

知識ベース検索

<http://knowledgemap.nai.com/>

McAfee テクニカル サポート サービスポータル (ログオン認証情報が必要です)

<https://mysupport.mcafeesecurity.com>

McAfee セキュリティ アラート サービス (MSAS)

http://mysupport.nai.com/supportinfo/psvans_info.asp

カスタマー サービス

電子メール

https://secure.nai.com/us/forms/support/request_form.asp

Web

<http://www.mcafeesecurity.com/us/support/default.asp>

電話番号 — 米国、カナダ、ラテン アメリカのフリーダイヤル :

+1-888-VIRUS NO または **+1-888-847-8766**

平日午前 8 時から午後 8 時まで (中部標準時)

世界各国の McAfee オフィスの連絡先については、以下を参照してください。

<http://www.mcafeesecurity.com/us/contact/home.htm>

McAfee ベータ版

<http://www.mcafeesecurity.com/us/downloads/beta/mcafeebetahome.htm>

トレーニング : McAfee University

<http://www.mcafeesecurity.com/us/services/education/mcafee/university.htm>

2

スパムおよびフィッシュについて ツールによってスパムおよびフィッシュを削減する方法

この項では、ツールの機能およびスパムを削減するために、このツールがいかに他の McAfee セキュリティ製品と動作するか説明します。

- [役に立つ用語](#)
- [12 ページの「スパムとは」](#)
- [12 ページの「スパムの回避」](#)
- [13 ページの「フィッシュとは」](#)
- [13 ページの「フィッシュの回避」](#)
- [14 ページの「カスタマー送信ツールとは」](#)
- [15 ページの「ベイジアン学習」](#)
- [15 ページの「スパム スコアの理解」](#)

役に立つ用語

役に立つ用語の定義を以下に示します。

- **フォールス ネガティブ** — スパムまたはフィッシュとして分類されていないが、一般的にスパムまたはフィッシュと見なされるコンテンツを含む電子メール メッセージ。
- **フォールス ポジティブ** — スパムまたはフィッシュとして分類されたが、受信者によってスパムまたはフィッシュと判断されない電子メール メッセージ。
- **スパマー** — スパムを作成する個人または組織。
- **スプーフィング** — 送信者の ID を隠蔽するために電子メール メッセージの送信元を偽造し、正当であるかのような Web サイトを作成する例があります。
- **ホワイトリスト** — 承認された送信者の一覧。
- **ブラックリスト** — スパムまたはフィッシュを送信する送信者の一覧。

スパムとは

スパムと見なされる、未承諾で迷惑な電子メール メッセージ。スパム（迷惑な大量メールまたは UBE としても知られる）には、電子的なジャンク メールである、商業的電子メール メッセージおよびデマ ウイルス、ジョーク、チェーン レターのような非商業的の不要な電子メール メッセージが含まれます。

スパマーとして知られるスパムの作成者は、真の ID を隠蔽するために電子メール メッセージのヘッダを偽造し、罪のない人々に報復が向くようにします。

非スパムとは

一部の電子メールはスパムと呼ばれますが、そうではありません。例えば、ニュース レターやオンライン フォーラムに登録したり、ある製品に関する情報を要求したり、ワークグループから脱退したばかりの場合などは、電子メールがまだ配布リストに登録されている可能性があります。こうした種類の不要な電子メールを削減するために、古い配布リストからあなたの電子メール アドレスをすぐに削除してください。

スパムの回避

メッセージの返信および送信、インターネットのチャット ルームへの書き込み、電子メール アドレスの通知に電子メール アドレスを使用するたびに、スパマーへ電子メール アカウントを露出していることになります。スパマーは、電子メール アドレスの一覧を蓄積します。長期間にわたって、こうしたアドレスはスパマーのネットワーク内で多くのリストに追加され、受信するスパムの数を増加させます。

メッセージを使用する最善慣行を奨励するために組織が推奨する、電子メールの使用に関するガイドラインに従ってください。これによって、受信するスパム メッセージの数を削減できます。例：

- **スパム メッセージで宣伝された製品の購入に注意する。**これによって、電子メール アドレスが有効であることがスパマーに通知され、アドレスが他のスパマーに売却される場合があります。個人情報もまた提供されます。
- **個人の電子メール アドレスをオンラインで掲示しない。**ニュースグループへの参加、コンテストへの参加、またはサード パーティによって電子メール アドレスが要求される場合は、代わりに、*使い捨て*の電子メール アドレスを使用します。このアドレスで過剰な量のスパムを受信したら、このアドレスの使用を中止して新しいアドレスを入手できます。
- **配布リストからのアドレス削除が提供された場合でもスパム メッセージに返信しない。**返信することで、電子メール アドレスが有効であることがスパマーに通知され、アドレスが他のスパマーに売却される場合があります。

McAfee ウイルス対策製品の注意深い構成によっていかにスパムが削減されるかを理解するには、[15 ページの「スパム スコアの理解」](#)を参照してください。

フィッシュとは

一部のスパマーは、電子メール メッセージのスプーフィングを専門とし、疑いのない電子メール ユーザをだまして個人情報や財政口座に関する情報を開示させます。スパムのこの専門的手口は、フィッシュとしても知られます。

通常、銀行など評判のある組織からであるかのような電子メールを受信します。この電子メールによって、なりすました Web サイトに導かれ、口座番号、パスワード、クレジットカードの詳細および社会保障番号など個人および財政上の詳細を求められます。犯罪者は、盗み出した個人情報を使用して商品やサービス（個人ローンなど）を不正に入手したり、口座から直接盗み出したり、銀行口座を開設してマネーロンダリングを行います。

フィッシュの回避

- **パスワードおよび他の個人情報を求める電子メールに注意する。**銀行はこうした情報を直接求めず、通常は郵便を使用して情報の確認を行います。組織が顧客の口座情報を紛失することはほとんどありません。電子メールまたは Web サイトで詳細を求めたりせずに、郵便によって新しい詳細を顧客に発行するのが、組織の通常の手順です。
- **Web サイトへのリンクに注意する。**個人的な情報の提供を求められる場合、なりすましたリンクを通して Web サイトへ導かれる場合があります。例えば、電子メール上のリンクを銀行の Web サイト (www.example.com) のように見せかけ、正当であるかのようなサイトへと導きます。しかし、ブラウザのアドレスが異なる名前 (www.example.net など) や IP アドレス (168.192.255.200 など) を表示します。
- **安全性の薄い Web サイトに注意する。**正当な組織は、送信の前に個人情報を暗号化する安全な Web サイトを運営しています。安全な Web サイトには、http://www.example.com ではなく https://www.example.com のようなアドレスがあります。つまり、http ではなく https として知られる安全なインターネットプロトコルを使用しています。

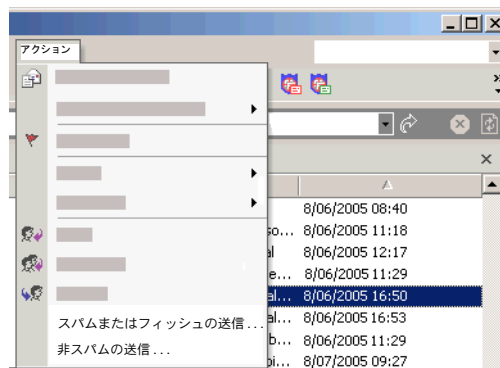
カスタマー送信ツールとは

スパムに対する安全な保護を提供するスパム対策製品。ただし、スパムは検出が難しい場合があります。スパマーが新しい技術を開発するため、新出のスパムはどのスパム対策製品によっても検出されない場合があります。さらに、誤った検出が発生する場合があります。スパム対策製品が、正当なメッセージをスパムとして分類する場合があります。

新出のスパム（およびフィッシュ）および誤って分類された電子メールを分析することによって、McAfee はスパム対策製品を継続的に改善します。

カスタマー送信ツール は Microsoft Outlook 電子メール ソフトウェアとともに動作し、受信する不要な電子メール（または スパム）の量を削減します。電子メールを読むと、追加のボタンおよびメニュー項目が有効になります。

図 2-1 Microsoft Outlook の追加ボタンおよびメニュー



このツールによって、電子メール メッセージを分析のために McAfee ラボまたは他の McAfee スパム対策製品へ転送できます。

■ McAfee ラボへの電子メールの送信

弊社では、スパム対策製品での検出の改善に絶えず努めています。弊社ソフトウェアまたは他社製品によって誤って分類されたメッセージと、その原因を調査し、これによってスパム対策製品を改善しています。



送信されたサンプルは機密項目として処理し、転送したり、研究以外の目的で使用することはありません。サンプルを正しく分析するために、テキストおよび添付を含め、送信者および件名、本文の内容を含むメッセージのヘッダを調べます。ツールのインストール時に、プライバシーに関する記述の表示が可能です。

■ Secure Content Management (SCM) appliance への電子メールの送信

ネットワークが SCM appliance によって保護されている場合、ページアン学習のためにサンプルをアプライアンスへ送信できます。[15 ページ](#)を参照してください。

■ McAfee Quarantine Manager (MQM) への電子メールの送信

ネットワークに MQM ソフトウェアが含まれる場合、ページアン学習のためにサンプルを McAfee Quarantine Manager へ送信できます。[15 ページ](#)を参照してください。

ベイジアン学習

Secure Content Management (SCM) appliance および McAfee Quarantine Manager (MQM) は、ベイズ確率論に基づいたデータベースを使用して、電子メールにスパム（またはフィッシュ）が含まれるかどうかを判断します。

電子メール サンプルを SCM または MQM 管理者へ送信して、新種のスパムおよびフィッシュを認識するようデータベースを訓練できます。単一の McAfee Quarantine Manager は、複数の SCM appliance の訓練を処理できます。

カスタマー送信ツールによって、1 クリックで複数のサンプルを送信できます。管理者は、データベースへ送信するサンプルを決定します。ソフトウェアは各サンプルの内容を分析し、今後の参考として、スパムのようなフレーズを学習します。

同様に、スパムまたはフィッシュとして誤って分類された電子メール メッセージを受信した場合、非スパムの学習のために電子メールメッセージを管理者へ送信できます。

正しく送信され、訓練のために使用されるサンプルが多ければ多いほど、スパムおよびフィッシュが将来正しく分類される確率が高くなります。

スパム スコアの理解

弊社のスパム対策製品は、各電子メール メッセージに対して広範囲に及ぶルールに適合します。各ルールは、ポジティブまたはネガティブというスコアと結びつきます。スパムのような特徴に照合するルールは、ポジティブ スコアとなります。正当なメッセージの属性に照合するルールは、ネガティブ スコアとなります。これらをまとめて、各メッセージに全体的なスパム スコアが与えられます。一部の簡単なルールは、一般的なフレーズにのみ照合します。もっと複雑なルールは、ヘッダー情報および電子メールの構造に照合します。

スパム対策製品によって、メッセージをスパムと見なすレベルを指定できます。通常、「5」のスコアはメッセージがスパムであることを示します。スパム対策製品は、メッセージの件名行に **SPAM** などのテキストを追加してメッセージを強調表示します。これによって、簡単にスパム電子メール メッセージを特定でき、メッセージの処理法を決定できます。

お使いのスパム対策製品が、スパム スコアが一定のレベルを超えた場合に、スパムを正しく分類するように設定されていることが重要です。レベルが高すぎると（スパム スコアが 10 以上）、スパム対策製品は一部のスパム メッセージを分類しません。レベルが低すぎると、正当な電子メール メッセージが誤ってスパムと分類される場合があります。

3

ツールのインストール

熟練ユーザおよび管理者向け

この項では、カスタマー送信ツール ソフトウェア バージョン 2.0 のインストール方法を説明し、以下の情報を提供します。

- インストールのチェックリスト
- インストール ファイルのダウンロード
- ツールの手動インストール
- スクリプトを使用したツールのインストール

多数の電子メール ユーザへツールを提供する場合は、スクリプトを使用することをお勧めします。[19 ページの「スクリプトを使用したツールのインストール」](#)を参照してください。

インストールのチェックリスト

カスタマー送信ツール は、弊社 Web サイトよりダウンロード用のファイルとして配布されます。カスタマー送信ツール をインストールする前に、以下のチェックリストをお読みになり、お使いのシステムがインストール プログラムを実行するために正しく設定されていること、またプログラムのインストールに必要な情報がすべてそろっていることを確認してください。

- ✓ コンピュータが Microsoft Windows 2000 以降のオペレーティング システムを搭載している。
- ✓ Windows オペレーティング システム の最新のサービス パックおよび Windows の更新がインストールされている。
- ✓ コンピュータが Microsoft Outlook 2000 以降のクライアントを搭載している。カスタマー送信ツール は、Microsoft Outlook Express または他の電子メールクライアントとは動作しません。
- ✓ コンピュータに、McAfee Web サイトよりダウンロードされたインストール ファイルへのアクセスがある。
- ✓ カスタマー送信ツール のインストールに必要な管理者権限および許可を持っている。
- ✓ McAfee Quarantine Manager (MQM) へ電子メールを送信するには、以下の情報が必要です。
 - server1.domain1 または 92.168.255.200 などの MQM サーバ名または IP アドレス。HTTP、HTTPS のいずれか、またはプロトコルを使用できます。認証プロセスによっては、以下が必要になる場合があります。
 - network_user@example.com など、MQM へ直接アクセスするためのユーザ名。
 - MQM へ直接アクセスするためのパスワード。
- ✓ MQM ソフトウェアが利用できない場合、Secure Content Management (SCM) appliance へ電子メールを送信できます。以下の情報が必要です。
 - server1.domain1 または 92.168.255.200 などの SMTP サーバ名または IP アドレス。ほとんどの場合、ワークステーションから直接アプライアンスへアクセスできないため、このアドレスは SCM アプライアンスへ電子メールを転送する SMTP リレーに参照します。Microsoft Exchange サーバとなる場合があります。
 - SMTP サーバ ポート番号。
 - スパムまたはフィッシュとして見逃された電子メールのアドレス。
 - スパム (またはフィッシュ) として誤って分類された電子メールの送信アドレス。

インストール ファイルのダウンロード

- 1 ハード ディスク上に一時フォルダを作成します。
- 2 McAfee Web サイトのスパム対策製品のセクションに接続します。
<http://www.mcafeesecurity.com/us/products/mcafee/antispam/category.htm>
- 3 [スパム送信ツール] のセクションを探し、アーカイブされたフォルダを一時フォルダへ解凍します。ZIP アーカイブの解凍に必要なユーティリティは、ほとんどの電子サービスから入手できます。

ツールの手動インストール



多数の電子メール ユーザーへツールを提供する場合は、スクリプトを使用することを勧めます。19 ページを参照してください。

- 1 実行しているすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 ツールをダウンロードした一時フォルダで、McAfee カスタマー送信ツールフォルダをダブルクリックします。
- 3 MCST.EXE を探して実行すると、インストール ウィザードが開きます。

インストーラによって適切な言語が自動的に選択されない場合、表示されるダイアログ ボックスで言語を選択できます。

図 3-1 [インストール ウィザード] ダイアログ ボックス



- 4 [次へ] をクリックして、[インストール先フォルダ] ページを開きます。
- 5 [参照] をクリックして異なるインストール先フォルダを指定するか、デフォルトを選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [アプリケーションのインストールの準備完了] ページで [次へ] をクリックし、[システムの更新] ページを開きます。

進行状況を示すバーとメッセージが、ページに表示されます。ファイルがコピーされ、ソフトウェアがインストールされます。これには数分かかる場合があります。インストールが完了すると、[McAfee カスタマー送信ツールは正常にインストールされました] ページが表示されます。

- 7 [完了] をクリックしてウィザードを閉じます。
- 8 Microsoft Outlook を起動します。Microsoft Outlook の標準ツールバーで追加のボタンが利用可能となります。14 ページの図 2-1 を参照してください。

スクリプトを使用したツールのインストール

複数のコンピュータに カスタマー送信ツール をインストールする場合は、スクリプトを使用することをお勧めします。必要なファイルをダウンロードするには、18 ページの「インストール ファイルのダウンロード」を参照してください。

インストール コマンドには一般的な様式があります。

```
msiexec /qn /I mcst.msi parameter1 parameter2 parameter3
```

Windows インストーラ に関する詳細情報については、Microsoft Web サイト を参照してください。

ツールを手動で構成する際に設定できる機能のすべては (27 ページの「ツールの設定」を参照)、このコマンドでパラメータとして指定できます。

次の表で、パラメータを説明します。

表 3-1 汎用パラメータ

パラメータおよびデフォルト値	説明
CONFIGENABLED 1 (はい)	[送信設定構成] ボタンを表示することによって、ユーザにツールの設定を許可します。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 1 と見なされます。
DELETESPAMONSUBMIT 0 (いいえ)	送信後にスパム (またはフィッシュ) を削除します。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 0 と見なされます。
DONTSHOWSPAMSUBMIT 0 (いいえ)	ユーザがボタンをクリックしてスパムまたはフィッシュを送信する際、送信ダイアログが表示されません。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 0 と見なされます。
DONTSHOWHAMSUBMIT 0 (いいえ)	ユーザがボタンをクリックして誤って分類された電子メール メッセージを送信する際、送信ダイアログが表示されません。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 0 と見なされます。
INSTALLDIR1 テキストを参照。	この場所にツールがインストールされます。デフォルトでは、ツールは以下の場所にインストールされます。 “C:\Program Files\McAfee\Submission Tool”
MAXSUBMISSIONCOUNT 10000	ユーザが 1 度に最大 40 億のメッセージを送信できるようにします。この範囲以外の値はすべて 10000 と見なされます。
REBOOT (なし)	インストールが完了したらオペレーティング システムを再起動します。 可能な設定は、F = 強制的に再起動、S = 再起動を抑制 または R = 再起動を行わない です。S または R をお勧めします。

表 3-2 McAfee ラボへの送信パラメータ

パラメータおよびデフォルト値	説明
ASEENABLED 1 (はい)	McAfee ラボへのサンプルの送信を有効にします。
ASERESPONSEFREQ 0 (ただちに)	McAfee ラボが送信に対して応答する頻度。可能な設定は、0 = ただちに 、1 = 毎日 、2 = 毎週 、3 = 行わない となります。他の値はすべて 0 と見なされます。
ASERESPONSETYPE 0 (簡潔)	McAfee ラボが送信する確認の種類。可能な設定は、0 = 簡潔 、1 = 標準 、2 = 詳細 です。他の値はすべて 0 と見なされます。

表 3-3 McAfee Quarantine Manager (MQM) への送信パラメータ

パラメータおよびデフォルト値	説明
MQMENABLED 0 (いいえ)	MQM へのサンプルの送信を有効にします。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 0 と見なされます。
MQMPATH "http://mqm.example.com/mqmuserui"	MQM のユーザ フォルダへの URL。
WHITELISTHAMONSUBMIT 0 (いいえ)	送信された電子メールがスパムまたはフィッシュではない、ホワイトリストへ送信者のアドレスを自動的に追加します。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 0 と見なされます。
BLACKLISTSPAMONSUBMIT 0 (いいえ)	送信された電子メールがスパムまたはフィッシュであった、ブラックリストへ送信者のアドレスを自動的に追加します。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 0 と見なされます。

表 3-4 Secure Content Management (SCM) への送信パラメータ

パラメータおよびデフォルト値	説明
SCMENABLED 0 (いいえ)	SCM appliance へのサンプルの送信を有効にします。 0 = いいえ、1 = はい。他の値はすべて 0 と見なされます。
SCMRELAYSERVER "mail.example.com"	server1.domain1 または 92.168.255.200 などの SMTP サーバ名または IP アドレス。
SCMRELAYPORT 25	SMTP サーバ ポート番号。 範囲は、1 ~ 65535 です。
SCMSPAMADDRESS "sample_spam@example.com"	スパムまたはフィッシュとして見逃された電子メールのアドレス。
SCMHAMADDRESS "sample_nonspam@example.com"	スパム (またはフィッシュ) として誤って分類された電子メールの送信アドレス。

例



文字列を二重引用符で囲みます。例：

```
INSTALLDIR1="C:\FOLDER A\FOLDER 1"
```

次のコマンドによって、カスタマー送信ツール がデフォルト値でサイレントでインストールされます。ユーザには、Microsoft Outlook ツールバーで **スパムまたはフィッシュのサンプルを送信する** および **非スパム サンプルの送信** ボタンのみが表示されます。インストールが完了しても再起動は発生しません。ユーザは McAfee ラボへのみサンプルを送信できます。ユーザはツールを再構成できません。

```
msiexec /qn /i mcst.msi CONFIGENABLED=0 INSTALLDIR1="C:\FOLDER A\FOLDER 1" REBOOT=R
```

次のコマンドによって カスタマー送信ツール がサイレントでインストールされ、ユーザは McAfee Quarantine Manager へサンプルを送信できます。ユーザはツールを再構成できます。

```
msiexec /qn /I mcst.msi MQMENABLED=1 MQMPATH="http://mqm1/userui" REBOOT=R
```

次のコマンドによって カスタマー送信ツール がインストールされ、ユーザは Secure Content Management appliance へサンプルを送信できます。インストールの実行がユーザにも表示されます。ユーザはツールを再構成できます。

```
msiexec /i mcst.msi SCMENABLED=1 SCMRELAYSERVER="http://server1" SCMRELAYPORT=1234
```

電子メール ユーザへのツールの通知

カスタマー送信ツール が Microsoft Outlook クライアントにインストールされたら、電子メール ユーザに通知を発行できます。

例

本日、McAfee スパム送信ツールを配備しました。

このツールによって、組織全体で受信する SPAM の数を減らすことができます。Microsoft Outlook のツールバーに 2 つの追加ボタンが表示されます。下記のようなボタンが表示されない場合は、Microsoft Outlook を再起動してください。

このボタンをクリックして、スパムとして検出されなかったスパムのサンプルを提出します。



このボタンをクリックして、スパムとして誤って分類されたメッセージのサンプルを提出します。



設定の変更

ツールを再起動せずに後で設定の一部を変更するには、次のキーでレジストリ設定を変更できます。

HKEY_CURRENT_USER\Software\McAfee\Submission Tool

次の表は設定の一覧です。

表 3-5 デフォルトのレジストリ値

名前	デフォルト値 (16 進数)
AseEnabled	00000001
AseResponseFreq	00000000
AseResponseType	00000000
BlacklistSpamOnSubmit	00000000
ConfigEnabled	00000001
DeleteSpamOnSubmit	00000000
DontShowHamSubmit	00000000
DontShowSpamSubmit	00000000
MaxSubmissionCount	00002710
MqmEnabled	00000000
MqmPath	"http://mqm.example.com/mqmuserui"
ScmDataTimeout	0000ea60
ScmEnabled	00000000
ScmHamAddress	"sample_nonspam@example.com"
ScmRecvTimeout	0000ea60
ScmRelayPort	00000019
ScmRelayServer	"mail.example.com"
ScmSendTimeout	0000ea60
ScmSpamAddress	"sample_spam@example.com"
WhitelistHamOnSubmit	00000000

レジストリにおける名前は、19 ページの「スクリプトを使用したツールのインストール」のパラメータと一致します。

SCM time-out など一部の名前は、パラメータとして利用できないものもあり、レジストリからのみ設定できます。SCM time-out のデフォルト値は、60000 ミリ秒 (1 分) です。

変更したレジストリ設定を実行するには、Microsoft Outlook を再起動します。間違った値を入力すると、ツールによってデフォルト値に置き換えられます。

4

ツールの使用 ボタンおよびメニュー項目

カスタマー送信ツール がインストールされると、ツールバー ボタンおよびメニュー項目が Microsoft Outlook クライアントに追加され (14 ページの図 2-1 を参照)、以下を実行できます。

- スпамまたはフィッシュとして分類されるべきメッセージを送信する。
[スパムまたはフィッシュ サンプルを初めて送信](#) および 24 ページの「[スパムまたはフィッシュをさらに送信](#)」を参照。
- スпамまたはフィッシュとして誤って分類されたメッセージを送信する。
25 ページの「[誤って分類されたサンプルを初めて送信](#)」および 26 ページの「[誤って分類されたサンプルをさらに送信](#)」を参照。
- Microsoft Outlook 連絡先のすべてをホワイトリストへ追加する (McAfee Quarantine Manager を使用中の場合)。26 ページの「[Microsoft Outlook 連絡先をホワイトリストに追加](#)」を参照。
- 一部のツール設定を構成する。27 ページの「[ツールの設定](#)」を参照。

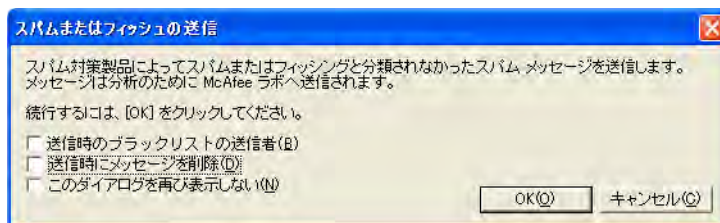
スパムまたはフィッシュ サンプルを初めて送信

サンプルを初めて送信する場合は、ツールを好きなように設定できます。スパムまたはフィッシュのサンプルを提出するには、以下の手順に従います。

- 1 Microsoft Outlook で、メッセージを表示するか、メッセージの件名行を選択します。
- 2 ツールバーで「[スパムまたはフィッシュのサンプルを送信する](#)」ボタンをクリックします。「アクション」メニューも使用できます。以下のダイアログ ボックスが表示されます。



図 4-1 「送信」ダイアログ ボックス



- 3 このダイアログ ボックスで、必要な機能を選択します。

機能	説明
送信時のブラックリストの送信者	このチェックボックスは、McAfee Quarantine Manager ソフトウェアを使用中の場合にのみ利用できます。 スパム電子メールの送信者をブラックリストに追加します。 将来、この送信者からの電子メールはブロックされます。
送信時にメッセージを削除	選択したスパムまたはフィッシュの各サンプルを、送信された後に削除します。
このダイアログを再び表示しない	このダイアログ ボックスが再び表示されないようにします。 将来、このダイアログ ボックスを再び表示するには、Shift を押しながら「スパムまたはフィッシュのサンプルを送信する」をクリックします。

[OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。サンプルが送信されます。

- 4 McAfee Quarantine Manager へサンプルを送信する場合、ログオン名およびパスワードの入力が求められます。
- 5 サンプルが正常に送信されたことを示すメッセージ ボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

1MB 以上の大きすぎるサンプルは送信されませんので、McAfee では、このようなメッセージを削除することをお勧めします。

スパムまたはフィッシュをさらに送信

スパムまたはフィッシュのサンプルを提出するには、以下の手順に従います。

- 1 Microsoft Outlook で、メッセージを表示するか、メッセージの件名行を選択します。



電子メールの件名行を表示すると、1 度に複数のサンプルを送信できます。1 回の送信に複数のまとまった電子メール メッセージを選択するには、SHIFT キーを使用します。複数のメッセージを個別に選択するには、CTRL キーを使用します。



- 2 ツールバーで「スパムまたはフィッシュのサンプルを送信する」ボタンをクリックします。「アクション」メニューも使用できます。

ダイアログ ボックスが表示されたら、必要な機能を選択します。23 ページの「スパムまたはフィッシュ サンプルを初めて送信」を参照してください。ダイアログ ボックスが表示されない場合、SHIFT キーを使用して表示させます。[OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。

サンプルが送信されます。

- 3 サンプルが正常に送信されたことを示すメッセージ ボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

1MB 以上の大きすぎるサンプルは送信されませんので、McAfee では、このようなメッセージを削除することをお勧めします。

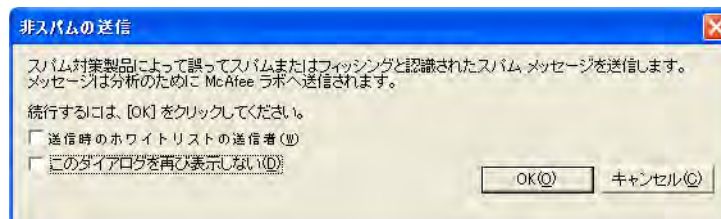
誤って分類されたサンプルを初めて送信

サンプルを初めて送信する場合は、ツールを好きなように設定できます。スパム（またはフィッシュ）として誤って分類された不要な電子メールを送信するには、以下の手順に従います。



- 1 Microsoft Outlook で、メッセージを表示するか、メッセージの件名行を選択します。
- 2 ツールバーで **[非スパム サンプルの送信]** ボタンをクリックします。**[アクション]** メニューも使用できます。以下のダイアログ ボックスが表示されます。

図 4-2 **[送信]** ダイアログ ボックス



- 3 このダイアログ ボックスで、必要な機能を選択します。

機能	説明
送信時のホワイトリストの送信者	このチェックボックスは、McAfee Quarantine Manager ソフトウェアを使用中の場合にのみ利用できます。 将来、この送信者からの電子メールはスパムとして分類されません。
このダイアログを再び表示しない	将来このダイアログ ボックスを表示するには、SHIFT キーを押しながら [非スパム サンプルの送信] ボタンをクリックします。

- 4 [OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。サンプルが送信されます。
- 5 McAfee Quarantine Manager へサンプルを送信する場合、ログオン名およびパスワードの入力が求められます。
- 6 サンプルが正常に送信されたことを示すメッセージ ボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

1MB 以上の大きすぎるサンプルは送信されませんので、McAfee では、このようなメッセージを削除することをお勧めします。

誤って分類されたサンプルをさらに送信

スパム（またはフィッシュ）として誤って分類された不要な電子メールを送信するには、以下の手順に従います。

- 1 Microsoft Outlook で、メッセージを表示するか、メッセージの件名行を選択します。



電子メールの件名行を表示すると、1 度に複数のサンプルを送信できます。1 回の送信に複数のまとまった電子メール メッセージを選択するには、SHIFT キーを使用します。複数のメッセージを個別に選択するには、CTRL キーを使用します。



- 2 ツールバーで **[非スパム サンプルの送信]** ボタンをクリックします。**[アクション]** メニューも使用できます。

ダイアログ ボックスが表示されたら、必要な機能を選択し (25 ページの **「誤って分類されたサンプルを初めて送信」** を参照)、[OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。ダイアログ ボックスが表示されない場合、SHIFT キーを使用して表示させます。[OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。

サンプルが送信されます。

- 3 サンプルが正常に送信されたことを示すメッセージ ボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

1MB 以上の大きすぎるサンプルは送信されませんので、McAfee では、このようなメッセージを削除することをお勧めします。

Microsoft Outlook 連絡先をホワイトリストに追加



この機能は、McAfee Quarantine Manager がインストールされている場合にのみ利用できます。ツールバーで **[送信設定構成]** が表示されるようカスタマー送信ツールを構成します。

Microsoft Outlook 連絡先からの電子メールがスパムまたはフィッシュとして分類されるのを防ぐために、連絡先のアドレスをホワイトリストに追加できます。



- 1 Microsoft Outlook のツールバーで **[送信設定構成]** をクリックします。
- 2 **[カスタマー送信ツール]** ダイアログ ボックスで、**[連絡先アドレスをホワイトリストへ追加]** をクリックします。
- 3 [OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。

今後、ホワイトリストに登録された電子メール アドレスから送信されたメッセージは、スパムまたはフィッシュのためにスキャンされません。(すべての電子メールメッセージがウイルスのためにスキャンされます。)

ツールの設定

[送信設定構成] ボタンがツールバーで利用できる場合、カスタマー送信ツールの一部の機能を設定できます。このボタンは、電子メールの件名行を表示している場合にのみ利用できます。



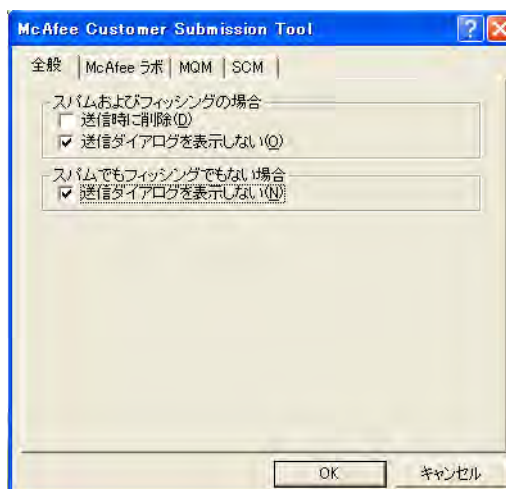
このボタンは、このボタンを有効にしないスクリプトでツールがインストールされた場合は利用できません。

ツールを設定するには、以下の手順に従います。



- 1 ツールバーで [送信設定構成] ボタンをクリックして、ダイアログ ボックスを開きます。

図 4-3 ダイアログ ボックスの設定



- 2 このダイアログ ボックスで、必要な機能を選択します。

ラベル	機能の説明
送信時に削除	スパムまたはフィッシュの電子メールを、正常に送信された後に削除します。
送信ダイアログを表示しない	スパムまたはフィッシュの（または誤って分類された）電子メールが送信された際、ダイアログ ボックスが表示されないようにします。

- 3 分析のために、McAfee ラボへサンプルを送信する場合は、[McAfee ラボ] タブを選択し、[有効化] を選択して、以下を選択します。

ラベル	機能の説明
応答の頻度	[McAfee ラボ] によって、送信確認の自動電子メールが送信される頻度を指定します。 [ただちに] を選択し、1 度に複数のサンプルを送信すると、数分間に複数の応答を受信する場合があります。
応答の種類	各自動電子メールの詳細を指定します。例えば [簡潔] にすると、確認のみの内容となります。

ツールを初めて使用する際は、[ただちに] と [簡潔] を選択することを McAfee はお勧めします。

- 4 McAfee Quarantine Manager へサンプルを送信する場合は、[MQM] タブ、[有効化] を選択してから機能を選択します。

ラベル	機能の説明
URL	以下のいずれかのような MQM サーバのアドレス。 <ul style="list-style-type: none"> ■ http://www.example.com ■ 192.168.255.200
ユーザ名	MQM との直接通信に使用されるユーザ名 (user@example.com など)。
パスワード	ユーザ名に結びつくパスワード。
送信時 に送信者のアドレスをブラックリストに追加する	将来、この送信者からの電子メールはブロックされます。
送信時 に送信者のアドレスをホワイトリストに追加する	将来、この送信者からの電子メールはスパムまたはフィッシュのためにスキャンされません。電子メールは、常にウイルスのためにスキャンされます。

- 5 Secure Content Management appliance へサンプルを送信する場合は、[SCM] タブ、[有効化] を選択してから機能を選択します。

ラベル	機能の説明
サーバ	以下のいずれかのようなサーバ名。 <ul style="list-style-type: none"> ■ server1 ■ 192.168.255.200 ■ mailto:192.168.255.200 ■ http://example.com/user ■ http://example.com/user:8080/user1/folder1
ポート	「25」のようなポート番号。
スパムおよびフィッシュの場合	spam@example.com のような (アプライアンスで設定した) アドレス。
スパムでもフィッシュでもない場合	not-spam@example.com のような (アプライアンスで設定した) アドレス。

- 6 [OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。新しい設定はすぐに有効になります。